

※3人が交代で議長を務めました。



特集

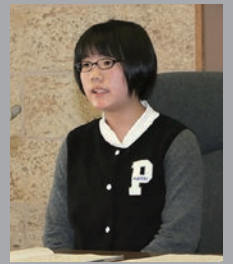
子ども議会



野村勇斗議長
(小泊小)



工藤陽菜議長
(武田小)



長利絢捺議長
(中里小)

開催3回目となる子ども議会。子どもたちの斬新なアイデアを町政に反映させようと今年も、2月5日(木)役場議場で行われました。中里小と初出場の武田小・小泊小の児童11人が、町議会議長や議員の見守る中、子ども議員として町長や教育長と議論しました。

議会が始まり、小野町長が「昨年もゆるキャラ制作などみなさんの意見が、町政に反映されることもある。議論を楽しみにしている」とあいさつしました。

子ども議員11人が順に質問者席に立ち、パネルを使うなど工夫をこらしながら町長・教育長に質問をぶつけていました。

最後は加藤教育長が「みなさんはよく調べて、よく考えて提案・提言している。今日は町議会議員も傍聴し、参考になったと思う。素晴らしい機会であった。後輩たちにも伝えて欲しい」と講評しました。

町の防災訓練を実施し、町民意識を高める



工藤 陽菜 議員
(武田小6年)

〈質問〉 町では一人暮らしの高齢者がたくさんいる。災害時は地域の連携が必要である。万が一に備え、命を守るために町全体で避難訓練を計画してみてもどうか。また、防災マップを各家庭に配布してはどうか。

〈答弁〉 小野町長
東日本大震災の教訓として津波対策は緊急性があり、小泊地域は平成25年まで年3回避難訓練を行った。また、意識向上のために専門家による講演会も行っている。近頃の異常気象で中里地域でも河川の氾濫などがあり、学校と連携した訓練の必要性を感じているため検討したい。防災マップは、県や国の見直しに合わせて修正する。

魚とふれあえる町づくりについて



野村 将也 議員
(中里小6年)

〈質問〉 昨年、小泊や下前へ行き漁業の勉強した。漁業のまちをPRするため、津軽水族館をつくってはどうか。また、海釣り公園を開設し、釣り大会、釣りスポット紹介、釣り具の貸し出しなどイベントをしてはどうか。

〈答弁〉 小野町長
夢のあるアイデアであり感謝したい。水族館については、建設は難しいが、道の駅ポイントに円形水槽とタッチプールがある。ミニ水族館をイメージした施設なのでみて欲しい。海釣り公園は、費用、漁師・漁協の理解が必要で難しい。磯、防波堤で釣りを楽しんでもらっている。釣り大会や漁業体験など魚とふれあえるイベントは検討する。

専門医師の配置について



野村 勇斗 議員
(小泊小6年)

〈質問〉 小泊地域には診療所はあるが、専門医師にみてもらうため、五所川原市などまで通っている。そこで要望だが、定期的に整形外科などの医師に来てもらうようできないか。

〈答弁〉 小野町長
医師の配置は、弘前大学附属病院、つがる総合病院や民間の医療機関にお願いしても専門医をふくめて医師不足が深刻であり、難しい状況である。町で独自確保することも困難な状況である。これからは、各医療機関が情報を有効活用し、治療することが重要になる。私の願いとしては、各小学校の児童の中から医師を目指す人が生まれ、町で医療に携わってほしい。



答弁する小野町長



子どもたちの目線から 斬新なアイデアが

短命県返上のための町 の取り組みについて



古川 莉乃 議員
(中里小6年)

〈質問〉 町では、少子高齢化が進み、人口が年々減少している。小学校の児童数も減っている。テレビでは短命県返上とCMをよくみる。そこで、町の平均寿命の実態、他町村との比較、町の取り組みを教えてください。

〈答弁〉 小野町長
青森県は男女とも平均寿命が都道府県で最下位である。町の平均寿命も、男性75・6歳で県内34位、女性83・9歳で県内39位と低い現状。

町は、健診、食生活、運動喫煙、飲酒、歯科保健・心の健康・子どもの健康の8つの目標で保健センターを中心に保健協力員、食生活改善推進員と協力しながら、健康寿命の延伸に取り組んでいる。

中里高校に専門の科を つくってほしい



木浪 紘寿 議員
(小泊小6年)

〈質問〉 小泊地域では中心産業である漁業をする人が少なくなった。また中里地域でも農業を継ぐ人が少ないと思う。そこで町の中心産業を守るため、中里高校は現在普通科だけが、漁業や農業を専門に学べる科をつくってもらえないか。

〈答弁〉 加藤教育長
中里高校は少子化の影響で生徒数が減少している。提案については、高校は県立であり、町ではなく県が方針を決める。専門科設置は難しい。

県内には五所川原農林高校など農業、漁業を専門とする高校がある。普通高校の教科のみでは不十分だと思うため、専門校でしっかり学んで町の産業を守ってほしい。

体育センターの整備に について



古川安梨紗 議員
(中里小6年)

〈質問〉 体育センター2階トレーニングルームには卓球台が5台あるだけで機能を果たしていない。また、壁も破損している。要望だが、ボールの無料貸し出しや室内用のサッカーゴール、2階には町民の健康のためトレーニング器具の設置などができないか。

〈答弁〉 加藤教育長
壁の破損は早急に修繕するため了承してほしい。2階の器具については、もともと数種類あったが、老朽化で処分した。そのとき購入していなかったので町長にお願いし必要な器具を揃えたい。また、2階で卓球をするのも場所として相応しいか疑問があり、工夫したい。ボールの無料化は検討する。

学校設備を整えてほしい (体育館・スロープ等)



新谷 和真 議員
(武田小6年)

〈質問〉 武田小体育館には暖房がない。野球部で練習しているが、とても寒さを感じている。他の学校はあると聞いている。整備してほしい。また、スロープ・手すりを設置すると学習発表会などで高齢者のみなさんが安全に学校に来れると思うが。

〈答弁〉 加藤教育長
体育館の暖房だが、昔は国も必要ないという考え方だったが、現在は違う。町の財政事情との兼ね合いもあるが、町長へお願いしてできるだけ早く設置できるようにしたい。手すり・スロープについては、中里中学校にもなく、最近になり木でつくっている。武田小についても校長先生たちと相談して考えていきたい。



町議会議員のみなさんも注目



答弁する加藤教育長

傍聴する児童

町のPRについて



三上 海琴 議員
(中里小6年)

〈質問〉 町にイメージキャラクターが誕生した。私のクラスでもデザインや名前を考え応募した。元気な子どもたちが登場するPRビデオを作し、マスコミ、ネットなど用いて広く紹介してはどうか。知名度アップや観光客を集めたり、特産品の売上向上へつながるのではないか。

〈答弁〉 小野町長
これまで「青森津軽半島中泊町ふるさととここにある」と題したPRビデオを制作している。金多と豆蔵が漫才をしている。ながら町の名所、人を紹介している。町イメージキャラクターは、合併10周年式典で披露する予定で、今後町内外のイベントで町のPRに活用していく。

さわやか団地の遊具の整備について



長利 絢捺 議員
(小泊小6年)

〈質問〉 さわやか団地には80戸の住宅があり、30人が中里小へ通学している。団地には広場が2つあり、地図ではコミュニティ広場と幼児公園となっているが実際はなにもない。遊具やベンチを設置してもらえないものか。

〈答弁〉 小野町長
団地は186人が在住している。住宅建設当時、公園整備を計画したが、住民たちが維持管理できないとして未整備となった。また、冬は雪置き場であることも理由の一つ。遊具は小学校や保育所を優先して整備しているため、当面は学校の遊具を使っていたら高年齢者まで利用できるような設置を検討する。

米をいかした食品開発(米粉パン等地産地消)



中谷 翔 議員
(武田小6年)

〈質問〉 町の食がもつとPRされれば、町の発展につながる。ピュアにはパンを焼ける機械もある。町の主産業である米から作る米粉を使ったパンなどで商品開発をしてはどうか。レシピコンテストやパンのデザインを募集するなども考えられる。最後はB-1を目指して。

〈答弁〉 小野町長・農政課長
ピュアの米粉の製品は、シフォンケーキ、プリン、クッキーなどの菓子類。今後はアドバイザーの意見を活用してブルーベリーなどを利用して新商品開発に取り組む。加工施設利用者と相談しながら一歩一歩進めていきたい。デザイン募集などは活性化に繋がると思うため参考にしたい。

雨や雪などの日も運動できるように



一戸 侑月 議員
(小泊小6年)

〈質問〉 小泊地域には小学校近くにふれあい運動場はあるが、雨や雪などのときに運動できるスポーツセンターがないので設置できないか。また、小泊小学校のプールも修理してもらえないか。

〈答弁〉 加藤教育長
雨や雪が降っても使用可能な体育館がほしいということだが建設はとても難しいので我慢してほしい。土曜日の体育館開放を積極的に使ってもらいたい。

プールについては修理ができない状況。本来プールは学校に必要なものだが、小泊小は津波に耐えられない高さの位置し、今の場所には建設できない。将来的には高台へ移さなければならない。